出版メディアパル通信 No. 54

出版メディアパル 2015 年 3 月 1 日号
市川市若宮 1-1-1　　電話 047-334-7094

■　3 月の新刊案内

電子出版と電子図書館の最前線を創り出す

―立命館大学文学部湯浅ゼミの挑戦―

湯浅　俊彦　編著

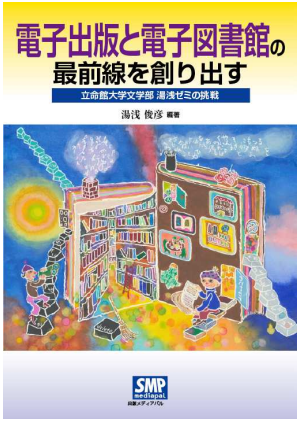
今日、日本の出版業界では電子出版ビジネスが話題の中心になっている。

出版産業のビジネスモデルが大きな変容を遂げつつあることは、誰の目にも明らかなものとなっているといってよいだろう。

一方、図書館界においても電子資料の利用や保存をめぐる動向を綿密に分析すると、既存の図書館像をすっかり変える可能性があることが分かる。

図書資料の「購入」から電子資料の「利用」への変化がもたらす影響は想像以上に大きい。

ところが出版業界や図書館界で仕事をする人々が、これからの電子出版メディアに対する明確なビジョンを持っているのかというと、必ずしもそうではない。むしろ手さぐりの状況で、次々と変化する事態の対応に追われているといった方が正しいだろう。



本書は、立命館大学文学部の湯浅ゼミが「電子出版と電子図書館―競合から共存へ」をテーマに「最前線を創り出す」課題に取り組んだ記録である。

ゼミ授業では、実際にタブレット端末をゼミ生に配布して電子書籍を活用し、電子出版ビジネスの最前線で活躍するゲストのレクチャーを受け、電子出版と電子図書館の現場へのフィールドワークを行った。

ゼミ生たちが挑んだテーマは、

- 電子書籍の「版」問題
- タブレット型端末を用いた読書活動
- リアル書店における電子書籍販売
- 電子コミックのデジタルアーカイブ構築
- 電子図書館における『貴重書』

など、実に多様で重層的なテーマを自ら設定し、文献調査だけにとどまらず、積極的にインタビュー調査に取り組み、フィールドワークを行った。

はたしてその試みはどの程度まで、達成されたのか。その判断は、本書を手にされる読者のみなさんに委ねたいと思う。

なお、本書の電子書籍版は、4 月に刊行される予定である。

2015 年 3 月

湯浅　俊彦

発売予定：3 月 15 日
Ａ５判・272 ページ
定価：本体価格2,400円＋税

＜編集室だより＞　　出版メディアパル編集長　下村昭夫

本書は、2014 年度の立命館大学文学部のゼミナール「電子出版と電子図書館―競合から共存へ」の１年間における実践の全記録である。意欲的なゼミ教育に取り組む湯浅俊彦教授は、日本出版学会・理事、日本ペンクラブ・言論表現委員会副委員長、国立国会図書館・納本制度審議会委員として、幅広く活躍されている。

2013 年度の湯浅ゼミでは、「電子学術書実証実験」として iPad をゼミ生に配布して電子書籍を活用した授業を行い、電子出版と電子図書館の現場へのフィールドワークを行って、その成果を『デジタル環境下における出版ビジネスと図書館―ドキュメント「立命館大学文学部湯浅ゼミ」』（出版メディアパル、2014 年 4 月刊）として刊行し、好評を得た。

学生たちによる「電子出版最前線」のリポートを今年も、出版現場で日夜、情報のデジタル化や電子書籍の編集で苦労されている編集者の皆さんに、お読みいただければ幸いである。